

# リンガルブラケット矯正法について

## — 臨床編 —

ソフィア歯列矯正歯科医院 相澤 一郎

見えない矯正装置として、現在ではアライナー装置をはじめリンガル矯正装置が代表的と思いますが、リンガルブラケット矯正法は年々需要が増えているのが現状と思います。リンガル矯正治療法が開発された当初は装置、装着法、メカニズムなど明確でないところもあり治療効率・結果も不完全なものがありました。ブラケットの改良や治療システムの確立から年々クオリティが向上していると思います。とはいえ、ラビアル矯正に比べてドクターサイドでは治療の煩雑さ、患者サイドでは舌への違和感、発音への影響があることは事実です。本日の秋期セミナーでは前半で佐奈先生にリンガル矯正法の基礎編としてバイオメカニクスを主に多数の臨床例を通してご教示いただき、私はリンガル矯正法で起こり得る患者トラブルと対処法について臨床例を交えながらお話しさせていただきたいと思います。

「ラビアル矯正の常識はリンガル矯正での非常識」という言葉もあるように、口腔内の条件が変われば環境も変わります。リンガル矯正故のラビアル矯正との違いについて、少しでも明日からの皆様の臨床にお役に立てるようなお話しになれば幸いです。

### <略歴>

- 1987年3月 日本大学歯学部卒業
- 1991年3月 同大学補綴学第III教室退局
- 2001年11月～ ソフィア歯列矯正歯科 院長
- 2014年～ 日本成人矯正歯科学会 認定医常務理事
- 2017年～ 日本舌側矯正歯科学会 副理事長・常務理事

### <所属学会>

- 日本矯正歯科学会
- 日本成人矯正歯科学会 認定医、専門医、指導医
- 日本舌側矯正歯科学会 認定医
- Active member of European Society of Lingual Orthodontics (ESLO)
- Titular member of European Society of Lingual Orthodontics (ESLO)
- Active member of World Society of Lingual Orthodontics (WSLO)
- Best case presentation (WSLO.NY)